

|    |          |
|----|----------|
| 氏名 | 吉野 巖     |
| 学位 | 博士(行動科学) |

| 担当授業科目            | 著書・学術論文の名称等  | 単著共著                 | 年月                     | 発行所等                              | 概要  |
|-------------------|--|----------------------|------------------------|-----------------------------------|---|
| 教育心理学<br>保育の心理学II | (学術論文等)<br>1.音楽鑑賞における演奏者の映像の効果—音楽心理学研究に基づく仮説の実践授業での検討—<br><br>2.小学校算数文章題解決におけるメタ認知能力の育成—小学校5年生「小数の割り算」の実践授業を通して— | 共著第1著者<br><br>共著第1著者 | 平成26年6月<br><br>平成24年2月 | 教育心理学研究<br><br>北海道教育大学<br>紀要教育科学編 | 演奏者の映像が楽曲の認知に及ぼす影響と鑑賞授業での有効性について検討したものである。小学校5年生と大学生を対象にした研究1の結果から、「楽曲の諸要素の認知や情景のイメージには音のみ聴取が効果的である」という仮説を立て、研究2で小学4年生を対象にした2時間の鑑賞授業によって検証した。その結果、この仮説が検証され、楽器の認知についても音のみで鑑賞することの優位性が示された。両者の視聴形態の効果をふまえた上での、学習目的に応じた授業計画の必要性について議論した。共同研究により抽出不可能<br><br>算数授業でメタ認知的思考を高めることができるか、問題解決も向上するかについて調べた。小学校5年生の実験群クラスで、メタ認知が問題解決に役立つことを説明した上で、問題解決ワークシートとメタ認知的思考を意識させるメタ認知シートを用いてメタ認知的思考を促す介入授業を約1か月間行った。その結果、実験群は、統制群に対して事後テストのメタ認知得点が有意に高くなり、文章題の問題解決も向上した。また、メタ認知得点が低かった児童は4回の介入授業にわたって得点が有意に上昇した。共同研究により抽出不可能 |

|    |        |
|----|--------|
| 氏名 | 相内 泰三  |
| 学位 | 博士(農学) |

| 担当授業科目 | 著書・学術論文の名称等                               | 単著共著 | 年月              | 発行所等        | 概要   |
|--------|---|------|-----------------|-------------|--|
| 教育課程論  | (教育実践記録)<br>1. 「学校インターンシップ実施報告集」NO.1～NO.4 | 単著   | 平成22年9月～平成25年9月 | 天使大学教職課程委員会 | 教職課程履修の2年目学生に対して、小学校での5日間(月～金)の学校体験を実施する。体験実施後、①教師の仕事、②児童の様子、③実習体験で学んだこと、④今後に向けての課題について一人一人まとめさせ、報告集とした。 |

|    |         |
|----|---------|
| 氏名 | 石出 和也   |
| 学位 | 修士(教育学) |

| 担当授業科目           | 著書・学術論文の名称等                  | 単著共著 | 年月      | 発行所等         | 概要  |
|------------------|------------------------------|------|---------|--------------|---|
| 音楽教育法A<br>音楽教育法B | (学術論文等)<br>1. サウンド本位の創作指導の実践 | 共著   | 平成28年3月 | 日本教育大学協会研究年報 | 音楽科教育における歌唱、器楽、創作(音楽づくり)、鑑賞の活動では、学習対象となる楽曲(即ち、音楽そのもの)について児童生徒に考えさせる際、しばしば、何らかのイメージを促す発問・指示を教師が投げかけることがある。だが、従来の音楽科授業実践で扱われているイメージの多くは、学習対象から離れた音楽外のイメージ(映像的イメージ)に偏っている。音楽科の創作学習場面においても、音楽外の映像的イメージを出発点とした事例が多く、学習者が創り出す音楽は、概して「効果音」に留まる傾向にある。そこで本研究では、「その音素材によってできること」を考えようとする「音楽的思考」を活性化させるため、サウンド本位の創作指導の意義と可能性を検討している。タブレット型端末と楽譜作成アプリを用いた中学校音楽科の創作指導の実例を分析した結果、音楽とは直接関わりのない映像的イメージを用いなくても、生徒たちは、サウンド本位の創作学習を行うことが可能であることが示された。本研究において導かれた、サウンド本位の創作指導を成立させるための諸条件は、生徒たちが音楽的思考を活性化させるような中学校音楽科の授業を構想する上で、広く応用可能なものである。 |
|                  | 2. 音楽学習材としての環境音              | 単著   | 平成28年1月 | 音楽学習研究       | 本研究では、環境音の学習材(教材)としての意義を検討する。環境音の聴き方としては、①意味把握としての受容、②音そのものとしての受容、③身体感覚に根差した受容、そして④コンテキスト包括的な受容という主に4つの類型が見られる。環境音に対する学習者の意味生産の様態を明らかにするため、本研究では「聴取の詩学」の視点を踏まえつつ、「音のコンテキスト」を聴き手個人の身体感覚から、社会的・文化的に共有された意味へと至る拡がりをもつものとして捉えている。授業者が「何の音であるのか」「どのような音であるのか」「どの音であるのか」という聴取の仕方を往還させるような学習過程を設けることにより、学習者である聴き手の意味生産は促進されるだろう。環境音という音楽学習材(教材)は、聴取による意味生産を自覚させることができるという点において、児童生徒がさまざまな音楽や音楽文化に触れる体験を支える基盤となり得る。このことは、中学校の音楽科授業において今後、音楽文化を生徒に学ばせる際にも重要な論点である。   |
|                  | 3. 音楽学習としてのサウンドウォーク          | 単著   | 平成26年3月 | 弘前大学教育学部紀要   | 現在、音楽づくりや創作をはじめ、音楽科教育のさまざまな場面において、身の周りの音(環境音)を教材化した学習活動が実践されている。実践事例集などを俯瞰する限り、屋外で環境音を聴取して、それを言葉や視覚的素材にあらわす学習活動や、音地図を作成する学習活動などは数多く示されている。だが、サウンド・エデュケーションの活動の1つであるサウンドウォーク(引率者にしたがって参加随行者たちが環境音を聴取・探索しながら歩く活動)については、ほとんど示されていない。本小論の主眼は、どのような条件のもとで授業者がサウンドウォークを「音楽学習にする」ことが可能となり、学習者にとって「音楽学習になる」ことが可能となるのかを追究していくための、基礎的な視点を導くことである。授業者がサウンドウォークを音楽学習にするためには、サウンドウォークを「音楽的時空間の持続」として見る視点が必要最低限の条件となる。他方、学習者にとってサウンドウォークが音楽学習になるためには、サウンドウォークに取り組む際の意識を「わたしは【何を】聴取しているのか」から「わたしたちは【どのように】聴取しているのか」へと転換することが条件となる。       |

|    |         |
|----|---------|
| 氏名 | 追分 充    |
| 学位 | 学士(教育学) |

| 担当授業科目     | 著書、学術論文等の名称                         | 単著共著の別 | 発行又は発表の年月  | 発行所、発行雑誌又は発表学会等の名称 | 概要   |
|------------|-------------------------------------|--------|------------|--------------------|--|
| 道徳教育の理論と実践 | (教育方法の実践例)<br>1.「教科教育の実践と課題」の学生教育指導 |        | 平成25年4月～現在 |                    | 学校の教育課程の中核となる各教科の授業について、その設計、実行、評価を指導的立場から適切に遂行できる能力を身に付けさせる。                                |
|            | 2.「教育課程を創る」の学生教育指導                  |        | 平成25年4月～現在 |                    | 教育課程の原理や歴史の変遷、評価、潜在的カリキュラム等について理論的・実践的に学ぶとともに、教科等、特別活動、道徳科、総合的な学習の時間、外国語活動等の理想とすべき教育課程を作成する。 |
|            | 3.「道徳教育の開発」の学生教育指導                  |        | 平成25年4月～現在 |                    | 道徳教育の重要性や児童・生徒の道徳性の発達について理解を深め、道徳教育の計画や道徳の時間の授業構築を通して、道徳教育の実践的な指導力を高める。                      |
|            | 4.「子どもの学びを拓く授業づくり」の学生教育指導           |        | 平成25年4月～現在 |                    | 10分程度の短い模擬授業(マイクロティーチング)を行うことにより、児童・生徒の学びを切り拓く高度な授業力を身に付けるための授業。                             |

|    |         |
|----|---------|
| 氏名 | 酒井 義信   |
| 学位 | 修士(教育学) |

| 担当授業科目 | 著書・学術論文の名称等                           | 単著共著 | 年月      | 発行所等                    | 概要   |
|--------|---------------------------------------|------|---------|-------------------------|--|
| 教育方法   | (著書)<br>1. 子どもがよろこぶ算数活動 6年            | 共著   | 平成21年4月 | 国土社                     | 算数科では、児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数にかかわりのある活動を通して学ぶことを重視している。その「算数的活動」の実践例を集約。担当は、おもちゃで実験した等速運動の速さ調べから比例の学習をすすめる「運動の解析から比例へ」の算数的活動プラン。<br>(Pp.100-103)                   |
|        | 2. 算数・数学つまずき事典                        | 共著   | 平成24年8月 | 日本評論社                   | 算数・数学の学びにおけるつまずきは多様である。その中から一般的なつまずきを取り上げ、その原因と解消法を紹介。担当は、小学2年の2段階くりさりのつまずきを取り上げた「おとうさん、おじいさんから借りてきて」。 (Pp.31-34)  |
|        | (教育実践記録等)<br>1. 『経済学批判』の枠組みを基盤とした授業実践 | 共著   | 平成27年3月 | 札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要45号 | 学生の「教職自主ゼミナール」での模擬授業づくり「製糖業から見る十勝」における理論的な枠組みを、『経済学批判』から関連する部分を教員が提供し、それに基づいて学生が作成した。その枠組みに基づいて作成された授業進行スライドと授業の流れから、授業において理論的な枠組みの構築を試みる意義について分析。(共同研究により抽出不可能) |

|    |        |
|----|--------|
| 氏名 | 扇子 幸一  |
| 学位 | 修士(文学) |

| 担当授業科目                | 著書・学術論文の名称等                           | 単著共著 | 年月       | 発行所等                             | 概要   |
|-----------------------|---------------------------------------|------|----------|----------------------------------|--|
| 教育相談の基礎<br>教育相談の基礎と方法 | (学術論文等)<br>1.社会自立移行に向けての学童期の支援とは      | 単著   | 平成24年11月 | 乳幼児療育研究<br>第25号(北海道乳<br>幼児療育研究会) | 特別支援教育スタート後、普通学級に在籍する軽度の発達障害児童への就学期間の支援は充実して来ているが、それが真に社会移行につながるためのものとなっているか、またそうなるための条件はどのようなものであるか、スクールカウンセリング等支援の実践から分析、整理した。           |
|                       | 2.子どものみかたと大人の役割—大人の期待に添って育つ若者たちを喜ぶべきか | 単著   | 平成27年8月  | 子どもロジー第19<br>号(北海道子ども<br>学会)     | 虐待の急増に示されるように子どもたちの生育環境は決して好転しているとは思われない。しかし、この間、 <u>非行を始めとする問題行動は大幅に減少し、現状に満足を示す若者たちが増えている。こうした若者のありようがどのように生じているかを分析し、その健康度について考察した。</u> |

|    |         |
|----|---------|
| 氏名 | 花輪 大輔   |
| 学位 | 修士(教育学) |

| 担当授業科目   | 著書・学術論文の名称等  | 単著共著    | 年月                     | 発行所等  | 概要  |
|--|--|---------|------------------------|---|---|
| 美術教育法A   | (著書)<br>1. 図画工作・基礎造形   | 共著      | 平成28年3月                | 建帛社   | 図工・美術科教師を志す学生と現場教員が、造形活動や美術文化についての理解を深めるために、各分野を詳しく解説した専門書。映像メディア、文様構成、鑑賞の章の執筆を担当した。                            |
|  | 2. 美術学習指導書2・3  | 共著      | 平成24年3月                | 開隆堂出版   | 中学校美術の検定教科書の教師用指導書。映像メディアデザインの「学校のCMをデザインしよう」の執筆を担当した。  |
|  | 3. 解析台湾・日本 美術教育と児童画  | 共著      | 平成22年6月                | 風和文化藝術有限公司  | 日本と台湾の美術教育の現状を比較するとともに、小中学校の授業で制作された児童生徒作品について解説する専門書。主に表現主題や技法を中心として、北海道の中学生の作品解説を担当した。                        |
|  | (学術論文)<br>1. A Study on Task-Values of Art Education in Lower Secondary Level I —From Comparison with the Investigation Result in MURASE(1983)—: 査読論文                                      | 単著      | 平成27年3月                | 大学美術教育学会誌「美術教育学研究」第47号  | 中学生の「美術の授業」への動機づけ研究の一環として「課題価値(Task-Values)」を測定し、先行研究における技能の評定尺度とクロス集計を試みた結果及び考察を中心に報告した。特に、性差・学齢による差異が明らかになった。 |
|  | 2. A Consideration on Teaching-materials development of a low melting point alloy (For practice of the metal casting in the art education of the Elementary and Junior High Schools): 査読論文 | 単著      | 平成27年2月                | 日本基礎造形学会誌「基礎造形」023  | 低融点合金を用いた金属鑄造に関する題材開発について、地金や鑄造技法、実践の手法等の問題点を先行研究例から抽出し、新たな指導方法とその適応について提起した。特に電子レンジを活用した「脱蠟」方法が画期的だと捉えている。     |
|  | 3. 現代における小中学生の絵画表現の発達 段階の検討Ⅱ—1983年実施の「絵画表現能力調査」結果との比較から—: (単著) (2015)  | 単著      | 平成27年2月                | 実践美術教育学会誌「実践美術教育」vol.9  | 中学生の「美術の授業」への動機づけ研究の一環として「課題価値(Task-Values)」を測定し、先行研究における技能の評定尺度とクロス集計を試みた結果及び考察を中心に報告した。特に、空間意識との関係性が明らかになった。  |
| 4. A Report of the “Visual Media” Practical Use Situation in the South Korean Lower Secondly Level Art Education | 共著   | 平成27年2月 | 北海道教育大学紀要              | 映像メディア先進国といわれる韓国の中学校美術における映像メディアの実施状況において、現地での聞き取り調査及び教科書分析を基に報告した。   |   |
| 5. 現代における小中学生の絵画表現の発達 段階の検討Ⅰ—1983年実施の「絵画表現能力調査」結果との比較から—: 査読論文   | 単著   | 平成26年3月 | 大学美術教育学会誌「美術教育学研究」第46号 | 村瀬(1984)が1983年に実施した絵画表現能力調査の評定尺度を用いて、北海道教育大学附属学校の児童生徒3400名を対象に同様の調査を実施し、その結果の比較・考察から、現代的な小中学生の絵画表現の傾向及び課題を明らかにした。 |   |
| 6. The wood craft in Art Education using Ainu pattern by Junior high school students: 査読論文                       | 共著   | 平成26年2月 | 日本基礎造形学会誌「基礎造形」023     | 先行研究および文献を基にアイヌ文様構成の題材化の教育的意義を明らかにするとともに、実践例における生徒作品から、文様構成のパターンを明らかにした。  |   |

|    |         |
|----|---------|
| 氏名 | 水野 一英   |
| 学位 | 修士(教育学) |

| 担当授業科目 | 著書・学術論文の名称等              | 単著共著 | 年月      | 発行所等      | 概要  |
|--------|--------------------------|------|---------|-----------|---|
| 美術教育法B | (著書)<br>1.学習指導要領解説美術編    | 共著   | 平成20年6月 | 文部科学省     | 学習指導要領は、各教科(美術科)の目標や内容を文部科学省が定めたもので、解説書は、その内容をより具体的かつ明確にするために作成した教員向けの書籍である。<br>共同研究により抽出不可能  |
|        | 2.評価規準・評価方法の工夫改善に関する調査研究 | 共著   | 平成23年2月 | 国立教育政策研究所 | 中学校の学習の評価においては、目標に準拠した評価が一層重視されることに伴い、各学校における評価規準、評価方法等の工夫改善、評価の客観性や信頼性を高める取組が求められている。その際の参考となる資料を提供することをねらいとして作成した書籍である。<br>共同研究により抽出不可能 |

|    |         |
|----|---------|
| 氏名 | 村田 尋如   |
| 学位 | 修士(政治学) |

| 担当授業科目                      | 著書・学術論文の名称等   | 単著共著 | 年月       | 発行所等     | 概要  |
|-----------------------------|---|------|----------|----------|---|
| 社会科教育法A<br>公民教育法Ⅰ<br>公民教育法Ⅱ | (著書)<br>1.平成19年度高等学校教育課程編成・実施の手引                                | 共著   | 平成19年10月 | 北海道教育委員会 | 北海道の高等学校における教育課程編成と実施に資するため、 <u>小中高の学習内容の接続を踏まえた学習指導要領の解説と実践の進め方等</u> について執筆。資料を交え、 <u>学校教員の為の実用的な手引</u> となるよう作成。(共同研究により抽出不可能。また、監修も実施。)       |
|                             | 2.平成22年度研修資料「豊かなコミュニケーション能力に基づく危機回避能力の育成～教師と児童生徒間で起こる事故防止のために～」 | 共著   | 平成22年12月 | 北海道教育研究所 | <u>教員が体罰を行う原因について分析し、原因に対応した解決策を研修するため、実際の生徒指導等の場面における体罰回避の為の方法等</u> に関して、 <u>教育相談的手法やアサーション等の考え方など、効果的な研修方法</u> について執筆。(執筆部分:P. 1～18、P. 30～39) |
|                             | 3.最新版倫理資料集  | 共著   | 平成24年1月  | 清水書院     | 高校の公民科の科目「倫理」の指導に資する資料集であり、教科書を補足するとともに、センター試験等の大学入試はもとより、 <u>大学生や一般社会人の教養教育としても活用可能な内容</u> で執筆及び監修を実施。(共同研究により抽出不可能。)                          |

|    |         |
|----|---------|
| 氏名 | 藪 淳一    |
| 学位 | 学士(保健学) |

| 担当授業科目 | 著書・学术论文の名称等                                   | 単著共著 | 年月                         | 発行所等 | 概要   |
|--------|---|------|----------------------------|------|--|
| 職業論    | (業績等)<br>1.放送局でアナウンサー職<br>2.北海道私立幼稚園協会教育研究委員長 |      | 平成4年4月～平成20年9月<br>平成26年5月～ |      | テレビ、ラジオ等の現場を通して、「伝える」「聴く」のコミュニケーション<br>道内私立幼稚園の教員研修の企画・運営、講師など |